




病害虫発生予察情報予報第1号(5月の予報)

佐賀県農業技術防除センター



I. 予報の概要および各作物の特記事項


作物名	病害虫名 ^{注1)}	5月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
水稻(早期・早植え)	いもち病	並	並	126~135 137~142	 いもち病
	ばか苗病	並	並	126~135	
	イネミズゾウムシ	やや多	やや多	170~171	
	1. 病害虫全般 育苗箱処理剤は、防除効果を確保するため、基準量をむらなく処理する。 2. イネミズゾウムシ 例年、発生が多い地域では、本虫に登録のある箱処理剤を処理する。				
水稻(普通期)	1. いもち病 普通期水稻については、既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底し、常発地帯では育苗期から防除を行う。また、育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいため、覆土を適正に行う。 2. もみ枯細菌病 種子消毒を確実に実施する。さらに苗箱の覆土前にカスガマイシン液剤の散布を行うと有効である。				

作物名	病害虫名 ^{注1)}	5月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	並	やや少	260~262	 べと病
	ポトリチス葉枯症	やや少	並	263	
	ネギアザミウマ	やや多	多	270~271	
	1. べと病(中晩生) 中晩生品種では、二次伝染による感染が5月上旬まで続く。本病による被害を抑えるため、定期的な薬剤防除を切れ目なく実施する(平成31年4月5日付け病害虫対策資料第1号参照)。				
イチゴ(育苗圃)	ハダニ類	やや多	やや多	208~209	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	少	198~200	
	アブラムシ類	やや多	やや多	213~214	
1. 親株でのハダニ類、うどんこ病、立枯性病害 健全苗を育成するため親株床から薬剤防除を実施する。立枯性病害(炭疽病、萎黄病、疫病)の苗での発生を抑えるため、発病した親株は、発生した子苗とともに見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	5月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キュウリ	べと病	やや多	並	178~179	 キュウリ うどんこ病
	うどんこ病	多	多	176~178	
	褐斑病	やや少	少	181~182	
	灰色かび病	並	並	179~180	
	アザミウマ類	やや少	並	190~191	
	コナジラミ類	多	多	189~190	
1. ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病)、タバココナジラミ (退緑黄化病) 両害虫はウイルス病を媒介するため、低密度時に薬剤防除を実施する。また、罹病株を認めた場合は早急に除去するとともに、媒介虫を対象とした薬剤防除を実施する。					
トマト	葉かび病	やや多	並	225~226	 葉かび病
	灰色かび病	少	並	220~221	
	コナジラミ類	やや多	やや多	151~153 228~230	
1. 黄化葉巻病 一部の圃場で発生が見られる。発病株は抜き取り、適切に処分するとともに、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。					
ナス	すすかび病	並	多	235~236	 ミナミキイロアザミウマ
	灰色かび病	並	並	234~235	
	アザミウマ類	並	やや多	154~158 241~242	
	コナジラミ類	やや多	多	151~153 242~243	
アスパラガス	茎枯病	並	並	313~314	 ネギアザミウマ
	褐斑病	並	並	314~315	
	斑点病	並	並	314	
	アザミウマ類	やや少	少	317~318	
1. 茎枯病、褐斑病、斑点病 定期的な薬剤防除を継続する。特に、茎枯病については、降雨時にサイドビニルを降ろし、雨の降込みを防ぐとともに、発病茎は見つけ次第、除去し適切に処分する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	5月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
果樹全般	果樹カメムシ類	並	少	239~242	1. 果樹カメムシ類 平均越冬虫数は平年並であるが、地点によっては越冬虫数が多いところもあるため、発生状況に注意する。また、気温が高い予想となっており、カメムシ類の活動が活発になる可能性があるため、この時期に被害を受けやすいウメ、モモ等では特に注意する。(平成31年3月13日付け病虫害対策資料第15号参照)

作物名	病虫害名 ^{注1)}	5月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	並	並	209~211	 ミカンハダニ
	かいよう病	並	並	213~215	
	灰色かび病	並	並	215~216	
	ミカンハダニ	多	多	234~236	
	1. ミカンハダニ 殺ダニ剤に対する感受性低下を防ぐため、4月~6月下旬はマシン油乳剤の使用を基本とする。ただし、樹勢が低下している樹や着花が少ない樹では、マシン油乳剤の散布を控え、殺ダニ剤散布で対応する。 2. 傷果、落果防止(灰色かび病、チャノキイロアザミウマ、果樹カメムシ類等) 本年の温州ミカンの着花量は少なめと予想されている。病虫害による減収を防ぐため、傷果や落果の原因となる灰色かび病等各種病虫害の防除を徹底する。特に、5月は気温が高いと予想されており、開花が早まる可能性があるため、防除時期を逸しないよう注意する。				
ナシ	黒星病	並	並	279~282	1. 黒星病 5~6月中旬までの薬剤防除は、原則的に保護殺菌剤を使用する。ただし、長雨等で薬剤散布ができなかった場合はDMI剤を散布する。
ブドウ	黒とう病	並	並	327~329	1. スピードスプレーヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とする。なお、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布などにより、丁寧に散布する。 2. 果粒の汚れ及び果粉の溶脱の防止 袋かけ前(大豆大期)に薬剤防除を行う際は、果粒の汚れ及び果粉の溶脱が少ない薬剤を選定する。
	べと病	並	並	330~332	
キウイフルーツ	かいよう病				1. かいよう病 感染防止のため、6月までは <u>すべての園において</u> 、銅水和剤を主体とした 定期的な薬剤防除を実施 する。なお、幼木は成木に比べ発病しやすく、また枝枯れや樹液の漏出など激しい症状となりやすいため、特に防除対策を徹底する。  葉の斑点症状

作物名	病虫害名 ^{注1)}	5月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	やや多	並	410~411	 カンザワハダニ
	クワシロカイガラムシ	やや多	並	417~418	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや少	416~417	
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	多	415~416	
	チャノホソガ	並	並	413	
<p>1. カンザワハダニ 被覆栽培はカンザワハダニの発生を助長する傾向にあるため、一番茶の摘採が遅い園では圃場観察を徹底し、農薬の使用基準に注意して防除を行う。また、一番茶摘採後においても本種の発生が見られる園では追加防除を実施する。</p> <p>2. クワシロカイガラムシ 幼虫ふ化期は5月中~下旬頃である。園内の発生ふ化状況を観察し、ふ化最盛期に防除を実施する。</p> <p>3. チャトゲコナジラミ 第一世代若齢幼虫の発生期となる5月中~下旬頃にクワシロカイガラムシと同時防除を行う。</p> <p>4. ナガチャコガネ 羽化期~成虫発生初期にあたる二番茶の萌芽開葉初期（5月下旬~6月中旬頃）が、防除適期であるため、発生圃場では薬剤防除を実施する。</p> <p>5. チャノココクモンハマキ 本年は気温が高めに推移しており、発生が早まる可能性がある。今後、各地域の状況をふまえながら、適期防除に努める。</p>					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平成（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～4 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
6 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

5 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 5 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（平成 31 年 4 月 18 日）を基に、「気温：平成より高い」、「降水量：平成並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 5 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平成比）
	低い(少ない)	平成並 (佐賀市の平成値)	高い(多い)	
気温	10	40 (19.5℃)	50	高い
降水量	30	30 (156 mm)	40	並

Ⅲ. 5月の予報

水稻(早期・早植え)

[【概要に戻る】](#)

1. いもち病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 前年の穂いもちの発生状況

平成30年の穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稻（8月上旬）で1.7%（平年4.6%）、北部山間の早植え水稻（9月上旬）で2.0%（平年10.5%）、普通期水稻（10月上旬）で12.9%（平年15.7%）であり、早期は平年よりやや少なく、早植えは平年より少なかったものの、普通期は平年並であり、多発生した地域も一部でみられた。〈±〉

(2) 5月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 水田周辺に放置された予備苗から葉いもちが蔓延することがあるので、補植後は早急に取り除く。

(2) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。

(3) その他については、特記事項を参照する。

2. イネミズゾウムシ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

発生時期：平年より早い（前年より早い）

2) 予報の根拠

(1) 前年の発生状況（越冬密度）

前年の発生は平年並であり、越冬密度は平年並と考えられる。〈±〉

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件である。また越冬成虫の本田飛び込みの時期は平年より早いと予想される〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 越冬成虫は4月中旬～6月上旬に水田へ侵入する。本田での発生状況の把握に努め、成虫が10株当たり5頭以上みられたら、粒剤を散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

タマネギ

（定期調査 早生5圃場、中晩生10圃場）

調査日：4月17日

1. ベと病（中晩生）

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）



定期調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：13.6% (平年 17.5%、前年 34.9%)

平年比：並 (±) 前年比：やや少 (一～±)

(2) 5月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

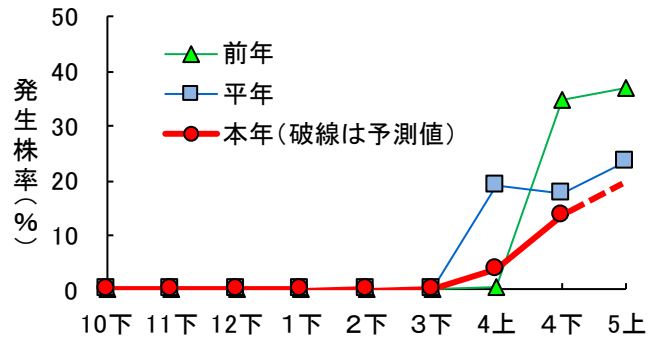


図1 中晩生タマネギにおけるべと病の発生推移

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：2.7% (平年 10.7%、前年 0.1%)

平年比：やや少 (一～±) 前年比：並 (±)

(2) 5月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに薬剤防除を実施する。

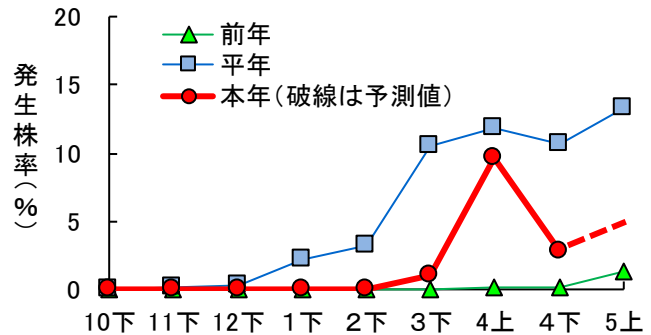


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：21.2% (平年 14.1%、前年 4.2%)

平年比：並 (±) 前年比：やや多 (±～+)

(2) 5月の気象予報

気温は平年より高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は薬剤がかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

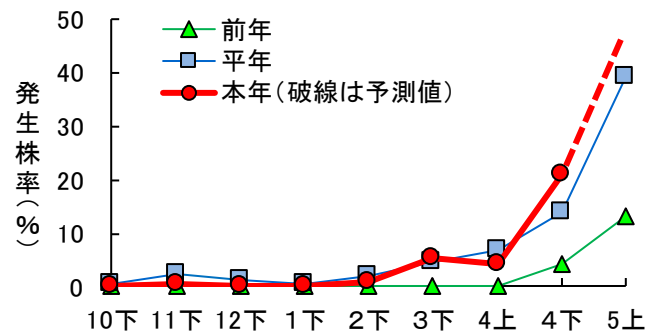


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

イチゴ (育苗圃)

(定期調査9圃場)

調査日：4月15～18日

1. ハダニ類

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)



定期調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 1.3% (平年 2.4%、前年 0.8%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によりハダニ類の薬剤感受性が異なるため、防除効果を確認し、薬剤を選定する。
- (2) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する

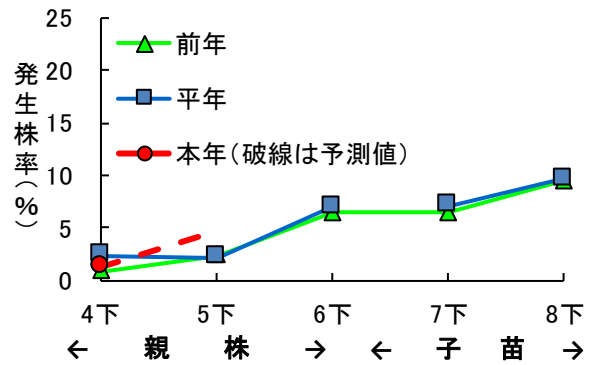


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0% (平年 5.8%、前年 13.6%)

平年比: やや少 (ー~±) 前年比: 少 (ー)

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 親株での薬剤防除を徹底する。

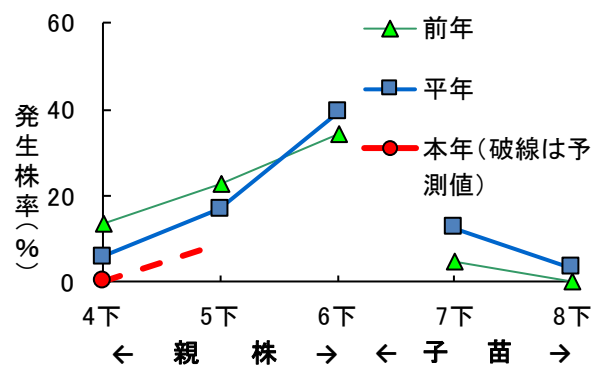


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率: 11.6% (平年 5.1%、前年 0.8%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: 多 (＋)

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。

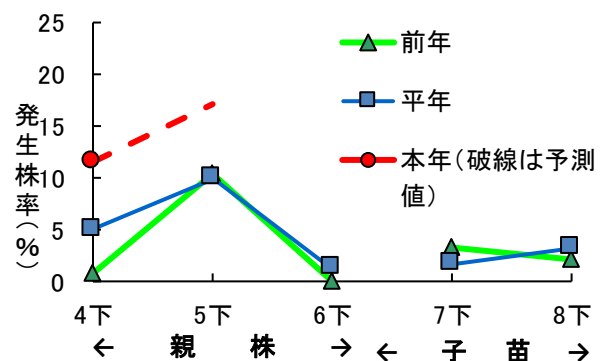


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

(定期調査 8 圃場)

調査日: 4月15~18日

1. ベと病

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)



定期調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率: 34.4% (平年17.9%、前年10.0%)

平年比: 多く+ 前年比: 多く+

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 同一系統の使用薬剤が増えないよう注意する。

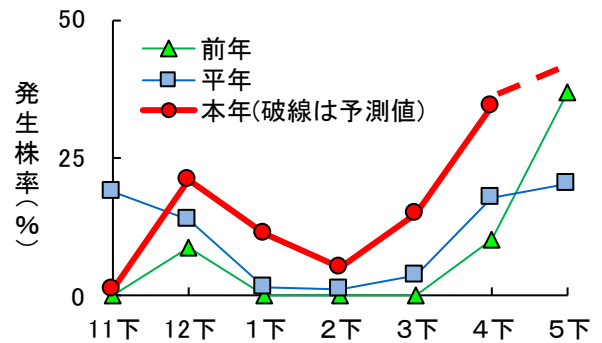


図1 キュウリペと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率: 30.0% (平年9.0%、前年19.4%)

平年比: 多く+ 前年比: 多く+

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 硫黄粒剤のくん煙や硫黄水と剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。

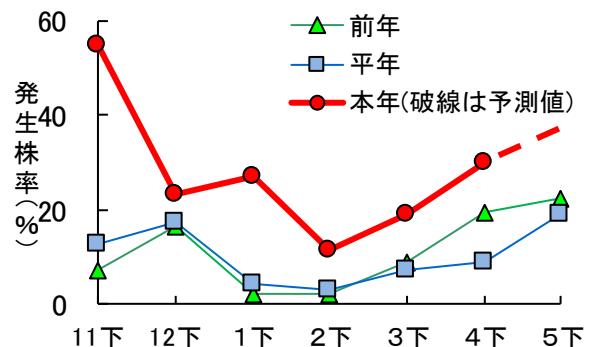


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率: 0.6% (平年10.6%、前年5.6%)

平年比: 少く- 前年比: やや少く(〜±)

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

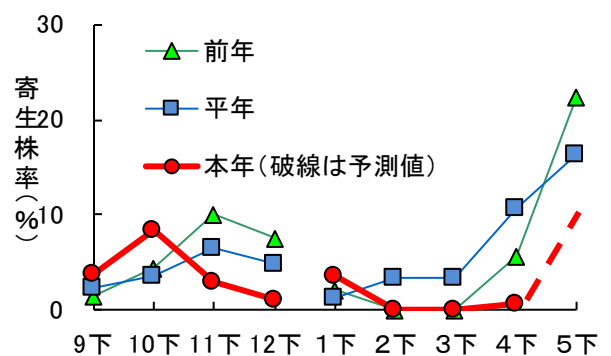


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率: 2.5% (平年0.5%、前年0%)

平年比: 多く+ 前年比: 多く+

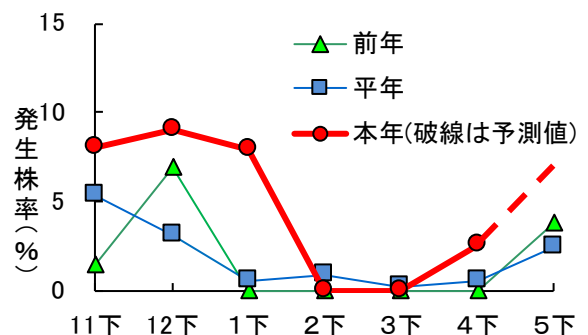


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

- (2) 5月の気象予報
気温が高く、多発生の条件〈+〉

- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

トマト

定期調査：12 圃場
調査日：4月15～18日



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

[【概要に戻る】](#)

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：13.1%（平年8.7%、前年14.4%）
平年比：やや多〈±～+〉 前年比：並〈±〉
- (2) 5月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の除去と系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせる薬剤防除を実施する

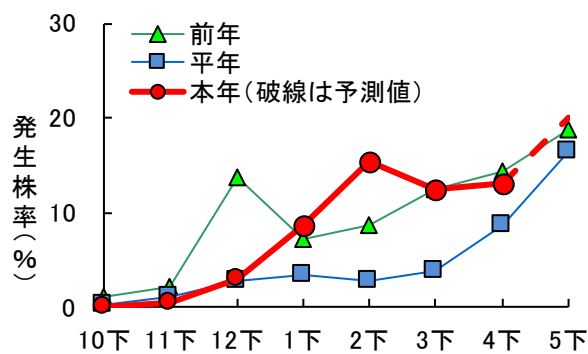


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年7.8%、前年8.8%）
平年比：少〈-〉 前年比：少〈-〉
- (2) 5月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の除去と系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせる薬剤防除を実施する

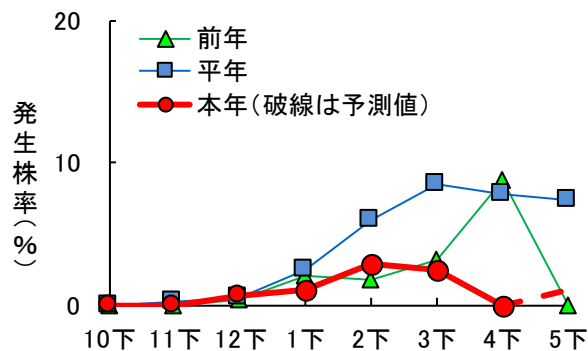


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：6.3%（平年5.5%、前年3.1%）
平年比：並〈±〉 前年比：やや多〈±～+〉

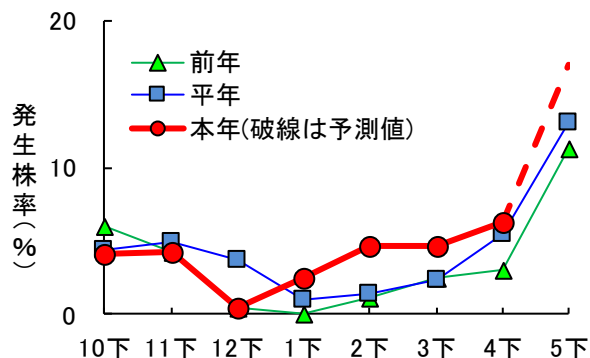


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

- (2) 5月の気象予報
気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

ナス（促成）

定期調査：7 圃場
調査日：4月15～18日



定期調査圃場の様子

1. アザミウマ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.9%（平年9.2%、前年0%）

平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

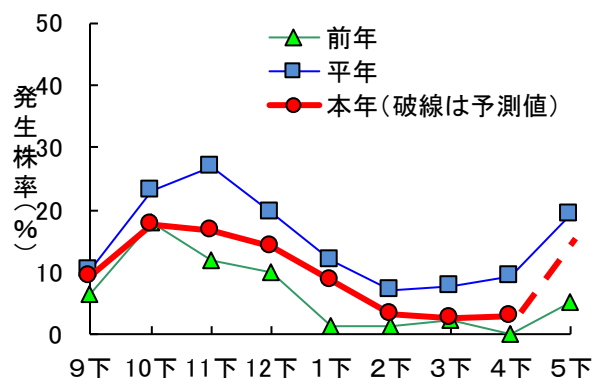


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：7.1%（平年8.7%、前年2.9%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) アザミウマ類の項と同じ。

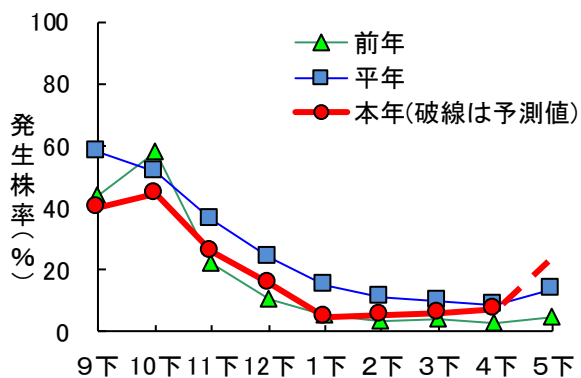


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

アスパラガス

定期調査：8 圃場
調査日：4月15～18日



定期調査圃場の様子

1. 茎枯病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生茎率：0% (平年0.0%、前年0%)

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2)5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1)特記事項を参照。

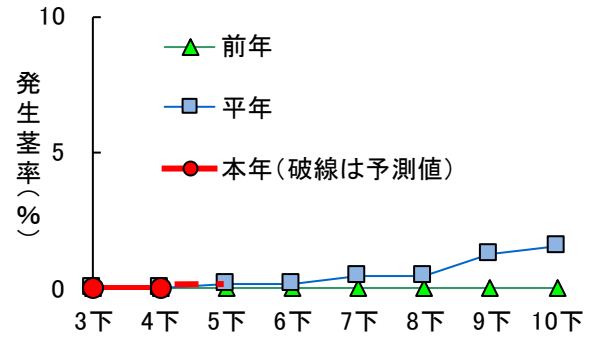


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年10.0%、前年15.6%)

平年比：少<-> 前年比：少<->

(2)5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1)若茎及び親茎への寄生や食害による被害を防ぐため、虫見板 (約20×30cm) への払い落とし (擬葉部を2~3回叩く) により発生頭数を調査し、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。

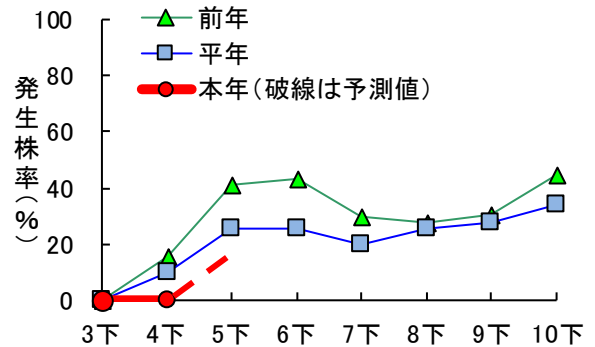


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

果樹全般

1. カメムシ類

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容 (4月~8月上旬)

発生量：平年並 (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1)チャバネアオカメムシの越冬状況調査 (詳細は、平成31年3月13日付け病害虫対策資料第15号参照)

①越冬地点率：54.5% (平年39.1%、前年68.2%)

平年比：やや多<±~+> 前年比：やや少<-~±>

②平均越冬虫数：0.24頭/m² (平年0.27頭/m²、前年0.67頭/m²)

平年比：並<±> 前年比：少<->

3) 防除上注意すべき事項

(1)特記事項を参照。

カンキツ

定期調査：7圃場

調査日：4月15~18日

1. そうか病

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)



定期調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率: 0% (平年0%、前年0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果実への感染を防止するため、落弁期に防除を行う。

(2) 果実に薬害を生じる場合があるため、落弁期以降にデランフロアブルとマシン油乳剤の混用又は近接散布は行わない。

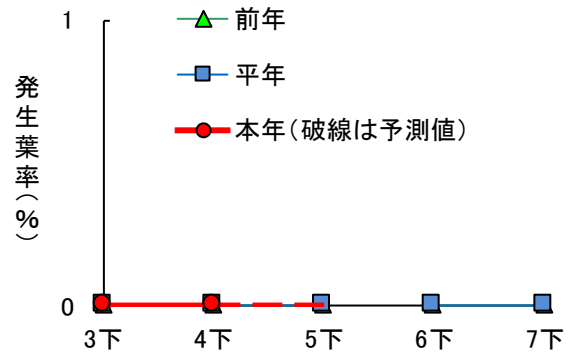


図1 カンキツそうか病の発生推移
注) 5月下旬までは旧葉を調査

2. かいよう病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率: 0% (平年0.1%、前年0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年に発生した園や、罹病製品種や風当たりが強い園など発生が問題となる園では、無機銅剤水和剤 (クレフノン 200 倍加用) または IC ボルドー66D (アビオン E1,000 倍加用) で定期的に防除を行う。散布間隔の目安はクレフノン 200 倍加用無機銅水和剤で 20~25 日で、IC ボルドー66D の場合は 30 日とする。

(2) IC ボルドー66D は、展葉期に単剤で散布すると、葉に石灰による薬害が発生するので、散布する際はアビオン E1,000 倍を必ず加用する。

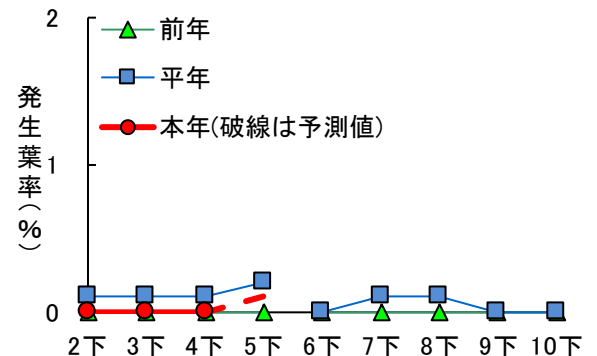


図1 カンキツかいよう病の発生推移
注) 5月下旬までは旧葉を調査

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率: 8.3% (平年5.0%、前年0.5%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: 多 (+)

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

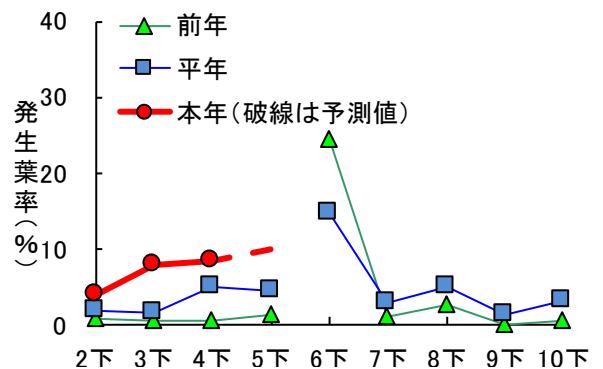


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移
注) 5月下旬までは旧葉を調査

ナシ

定期調査 (6 圃場)
調査日 : 4 月 18 日



定期調査圃場の様子

1. 黒星病

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容

発生量 : 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1、2 参照)

発生葉率 : 0% (平年 0%、前年 0%)

平年比 : 並 (±) 前年比 : 並 (±)

発生果率 : 0% (平年 0.1%、前年 0%)

平年比 : 並 (±) 前年比 : 並 (±)

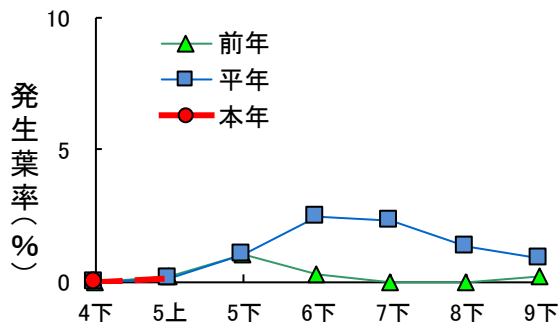


図1 ナシ黒星病(葉)の発生推移

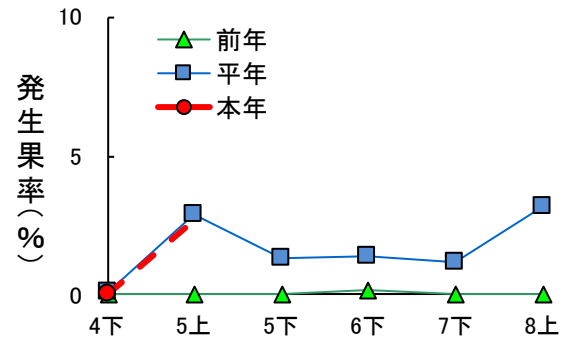


図2 ナシ黒星病(果実)の発生推移

(2) 主要感染期である開花期前後 (本年4月1~18日) の気象 (伊万里市のアメダスデータ)

平均気温は平年並で、降雨量は平年より少なく、やや少発生の条件で推移したと考えられる (一~±)

平均気温 : 13.0℃ (平年 13.0℃、前年 15.3℃) 降雨量 : 48.5mm (平年 108.2mm、前年 108.0mm)

(3) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

ブドウ

定期調査 (6 圃場)
調査日 : 4 月 15~18 日



定期調査圃場の様子

1. 黒とう病

[【 概要に戻る 】](#)

1) 予報の内容

発生量 : 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率 : 0% (平年 0%、前年 0%)

平年比 : 並 (±) 前年比 : 並 (±)

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

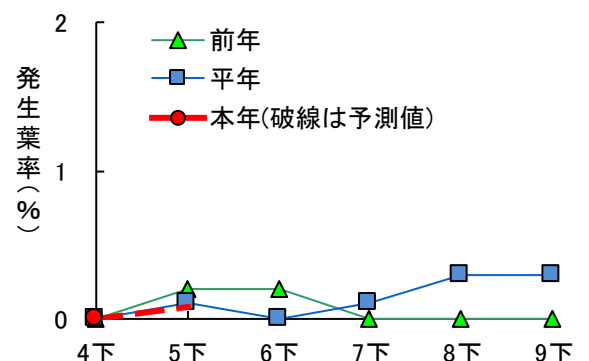


図1 ブドウ黒とう病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝の剪除と巻きひげの処分を徹底する。
- (2) 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期～新梢伸長期に防除を行う。

2. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 5月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源となるため、除去し、園外に持ち出して適切に処分する。

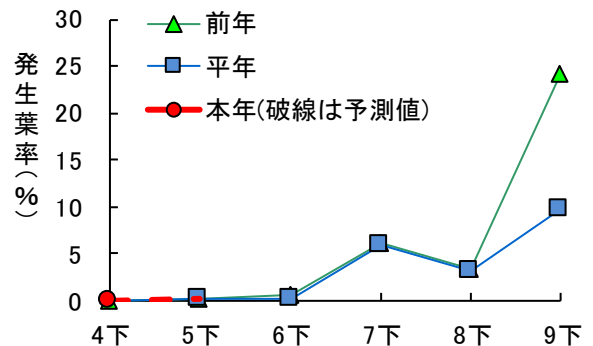


図1 ブドウベと病の発生推移

茶

定期調査：7圃場

調査日：4月17～20日

1. カンザワハダニ

[【概要に戻る】](#)



1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：4.9%（平年4.4%、前年3.0%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（+～±）

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。
- (3) その他は特記事項を参照。

定期調査圃場の様子

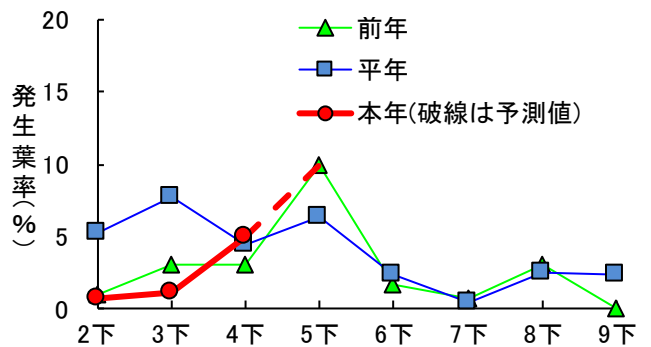


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

2. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（H30年より雌成虫の調査追加）

発生圃場率は85.7%で、

雌成虫※の寄生株率は19.3%（±）

※雌成虫の越冬量が第一世代の発生量に影響する。

（図1は雄繭の発生推移、5月より調査予定）

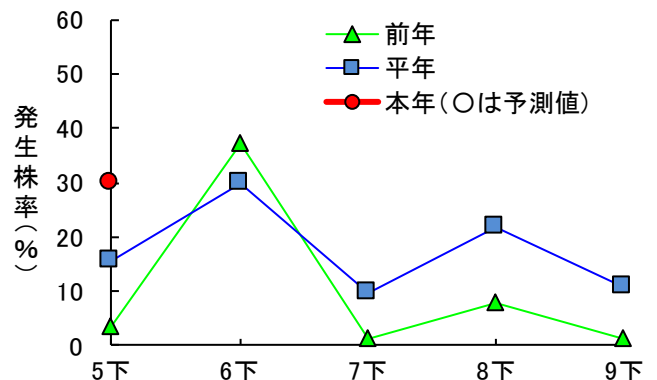


図1 クワシロカイガラムシ(雄繭)の茶での発生推移

- (2) 5月の気象予報
 気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。

3. チャノキイロアザミウマ

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査（図1参照）
 虫数：0.9頭/4ヶ所（平年2.0頭、前年0.9頭）
 平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 5月の気象予報
 気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

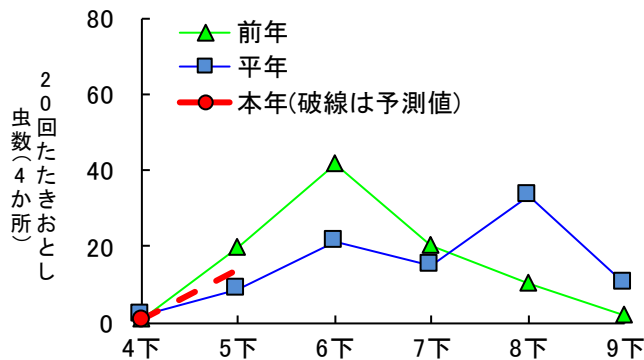


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 5月中～下旬にかけて発生が増加するため、一番茶摘採後、二番茶萌芽～開葉初期の防除を徹底する
 (2) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。
 (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. チャノミドリヒメヨコバイ

- 1) 予報の内容
 発生量：平年並（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査（図1参照）
 虫数：0頭/4ヶ所（平年0.3頭、前年0頭）
 平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 5月の気象予報
 気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

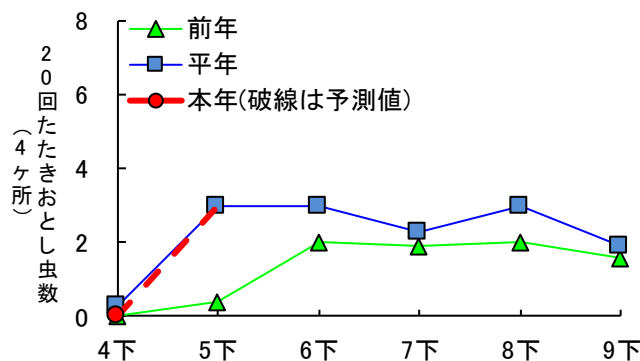


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 5月中～下旬にかけて発生が増加するため、一番茶摘採後、二番茶萌芽～開葉初期の防除を徹底する。
 (2) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。
 (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

5. チャノホソガ

- 1) 予報の内容
 発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 定期調査（図1参照、H30より4月調査追加）
 被害葉数：0枚/m²
 ② フェロモントラップ（図2参照）
 平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

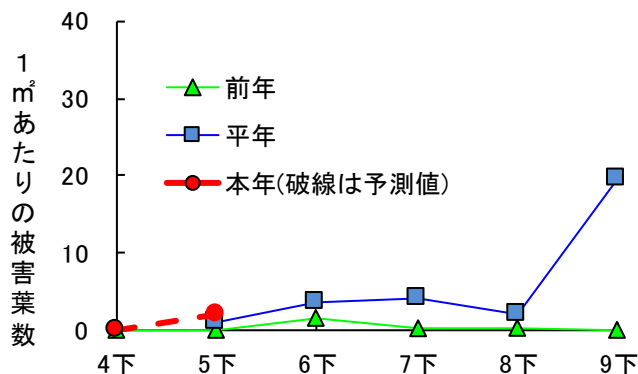


図1 チャノホソガの被害葉数の推移

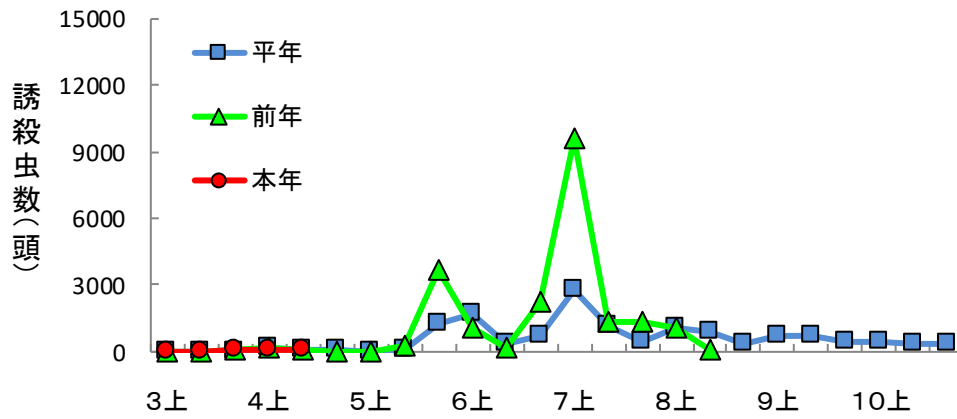


図2 フェロモントラップによるチャノホソガの旬別誘殺数の推移
(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 5月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 新葉展開期に防除を実施する。特に、発蛾最盛期から1週間後頃が適期となるのでこの時期に確実に防除を実施する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp